

# 転生ベルトとボクっ子 娘

すーぱー☆ふぁんたずむ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

目が覚めたら異世界で変身ベルトになってました。

……いやなんでさ!?

ここはどこ? あなたはだあれ?

運命求めてドナドナと、変身ベルトといたら特撮だよな!?

え? 魔獣に襲われ大ピンチ? 力が欲しい? ならばその少女、俺を使え!

細かい事は気にするな! 要するはノリだ!

変身だツ!!

これは、

転生したら変身ベルトだったヒーローオタな青年と、英雄を目指す少女の物語。

？このお話は、色々ぶっちゃけてしまうと、転生して魔物やら神やら無機物になるのがアリなら、変身ベルトに転生するのもありだよネ！　なんて発想から生まれた物語である。

2024 / 01 / 13

題名を変更しました。

旧題『転生したらベルトになった。……………なんでさ!?!』

# 目次

1 話 o r プ ロ ロ グ の よ う な も の

---

1 旧

# 1話orプロローグのようなもの 旧

——雨が、降っていた。

空は黒く、厚い雲に覆われて、辺りには木々が生い茂り、その森はどこまでも深く、人の気配も、小さな灯火もない。

まるで永遠に続く底無し沼のように深い夜の森を、少女は駆け抜けていた。

——走る

——走る

(少しでも遠くに……！……！ 引き付けないと——ッ!!)

——なんのために走るのか。

何者かを引きつけるために、少女は少しでも遠くへと、己の身を突き進ませる。

既にどれくらいの時を続けているのだろうか？

体力は既に限界を迎えており、足は一步踏み出すごとに悲鳴を上げて、その痛みは容赦なく全身へと伝わり、苦痛となって彼女の体を襲う。

——ッ!!

それでも彼女は足を止めない。

歯を噛み締め、痛みに耐えながらも駆け抜ける。

やがて木々が減り先が見えてくる。

あと少いで森を抜けようかという、その刹那――

不可視の砲弾が、彼女を吹き飛ばした。

「――ツァー！」

痛みよりも先に、衝撃が全身を包み込む。

直撃こそしなかったが、その威力は凄まじく。

地を砕き、少女の身体を軽々と吹き飛ばす。

「~~~~~ツ!!」

少女は、地面に叩きつけられる様に転がる。

全身を襲う苦痛に、今度は耐えることが出来ずに声にならぬ悲鳴をあげてしまう。

立ち上がるうにも、全身を襲う痛みと痙攣がそれを許してはくれない。

――ドシン！

――ドシン！

地響きが鳴り渡り、その音は徐々にこちらに近づいてくる。

「ヴウルルル……」

猛獣の唸り声、やがて彼女を追っていた追跡者が正体を現す。

追跡者の正体。それは、一頭の熊だった。

しかし、熊と言うには、その姿はいささか異形である。

通常の熊よりも数倍の大きさを誇る凶体を持ち、その手足にドリルの様な螺旋を描いた爪を生やして、風を纏っていた。

その姿はまさしく「魔獣」と呼べるだろう。

魔獣が彼女の元へと近づいていく。

逃げ場はもう無い。それでも彼女は諦めない。

（諦めない……ボクが、ボクがみんなを守るんだッ！）

魔獣がその剛腕を振り上げ――

――死。

少女の頭に死が過ったその瞬間――ッ!!

『うおおおおお!! 上から来るぞ! 気をつけやがれえ!!』

――声が聞こえた。

そして、空から流星の如く降ってきた『何か』が魔獣の鼻先を殴打した。

「グルアア!」

突然の激痛に悶える魔獣。

『その少女!』

脳裏に響く声。

「? 声? 誰かいるの……?」

『……だよ、……!』

何か落ちてきた場所、声の発生源場所に視線を向ける。

向けた先、そこにあつたのは――

「ベルト……?」

――少女は運命と出会う。